

## 平成 28 年度練馬区在宅療養推進事業 介護老人保健施設の調査研究

## (6月20日開催) 第1回ワーキンググループの結果報告

## 1. 開催概要

今年度、新規事業である介護老人保健施設の調査研究において、練馬区内老健スタッフで構成する第1回ワーキンググループを、6月20日(月)に開催した。

ワーキンググループには、区内13施設を運営する12法人より1名ずつ参加していただき、意見交換を行った。

## 2. 参加者

## 第1回ワーキンググループ 参加者

No	地区区分		施設名称	構成員氏名
1	練馬	桜台	介護老人保健施設ミレニウム桜台	副施設長 馬籠さとみ氏
2		豊玉北	介護老人保健施設リハビリパーク練馬	総務部長 田淵正氏
3	石神井	上石神井	神石介護老人保健施設	リハビリ部長、PT 木村由利子氏
4		高野台	介護老人保健施設カタクリの花	事務次長 野田綾氏
5		関町東	介護老人保健施設エスポワール練馬	事務長 川村信也氏
6	大泉	大泉学園町	介護老人保健施設大泉学園ふきのとう	理事長 辻正純氏
7		大泉町	介護老人保健施設練馬ゆめの木	事務課長 郡司弘美氏
8		東大泉	介護老人保健施設みんなの笑顔	副施設長 福井倫子氏
9	光が丘	春日町	介護老人保健施設葵の園・練馬	事務長 青木紀氏(欠席) (代理出席) 大村氏
10		北町	介護老人保健施設橘苑	介護支援専門員
11			介護老人保健施設第二橘苑	堀部えり氏
12		平和台	平和台介護老人保健施設アバンセ	事務長 川島崇史氏
13		氷川台	介護老人保健施設ライフサポートひなた	事務長 柳澤清志氏
事務局		練馬区役所		保谷嘉浩
		株式会社メディヴァ		増崎孝弘

### 3. 会議の目的等

区内の老健職員でワーキンググループを設置し、老健の現状と課題を明らかにし、在宅療養を推進するための老健のあり方および各老健の特性を活かした利用促進方法について検討する。なお、全3回のワーキンググループ終了後に、老健の現状や課題、役割、そして活用方法についてとりまとめた報告書を作成する。

第1回のワーキンググループでは、事前に行った老健利用職種へのグループインタビュー結果の共有や、各老健が抱えている問題意識および課題の共有、課題解決のための意見交換を目的とした。

### 4. 会議の概要

- 日時 平成28年6月20日(月)17時～19時
- 場所 練馬区役所本庁舎 19階会議室

#### (1) 練馬区地域医療課長より挨拶

- 区は平成25年7月から、医療と介護の連携をはじめとする、地域包括ケアシステムの確立に向けた取り組みを進めている。
- 区としては、老健は介護保険上の施設というだけではなく、区民が在宅で生活を進めるためにはなくてはならない資源だと考えている。
- 各老健施設ならではの特色も様々あると考えている。今回のようなWGを通じて老健そのものの特色をPRし、また各施設の様々な特徴というのを多職種や区民に発信していくことが必要だと考え、WGを設けた。
- とりまとめ報告については、無理に期限を区切ることなく、実のあるいいものを作って参りたい。皆様のご協力をたまわりたい。

#### (2) 調査概要の説明

- 老健を利用する区民にとって、区内老健がより使いやすい存在になるよう、他利用者からの理解促進等を図るべく、本WGで検討を進める。
- 4月19日に実施した、老健を利用する職種へのインタビューを踏まえ、今回のWGを開催する。
- 第2回WGでは、区内老健の課題や果たすべき役割、展望等の意見交換を行い、第3回WGにおいて、最終報告書にむけた最終的な議論を行えればと思っている。
- なお、今日のWGが終わったら、「持ち帰り課題」を実施していただきたい。持ち帰り課題について、自由にご記載いただいた内容を第2回WGの前に取りまとめ、議題設定の参考とさせていただく。

### (3) 事前調査の結果の共有

○事前調査の主な結果として、以下の点が挙げられた。

#### A「入所時の手続きに関する視点」について

- ・各老健の強みや医療対応のステイタスが外部から見てよくわからず、老健の選択に時間がかかる。また、入所の可否を決める判定会議の頻度の低さ、入所時に求められる書類の煩雑さに対する不満がある。

#### B「顔に見える連携強化の視点」について

- ・病院と老健のリハ職間や、相談員間の連携の必要がある。また、病院や在宅の医師と老健の医師の連携を活性化する場づくりの必要がある。

#### C「情報発信の視点」について

- ・区内の医療・介護関係者や区民は、老健という施設や制度に関して十分な知識を持っていない場合があるため、普及啓発の必要がある。

○では、調査結果を踏まえて意見交換に入る前に、まず、老健の実践報告として、医師会 辻先生から事例のご説明をお願いしたい。

### (4) 練馬区医師会 在宅医療部理事 辻正純先生より実践報告

○地域包括ケアの中で、老健には在宅復帰施設としての機能（病院退院患者の受皿・在宅高齢者のリハ受皿）と、在宅療養支援施設としての機能（ショート、デイ、特養の待機場所等）が求められている。

○老健の制度上の制約（包括報酬の制約や、判定会議の頻度問題等）から、周囲からは「使い勝手が良くない、わかりにくい」と認識されている。

○翔洋会では、老健に流動ベッド概念を導入し、ベッドをロング用・ミドル用・ショート用に明確に分け、これまでロングの空床利用としてのショート集客から、流動ベッドとしてあらかじめ確保したベッドでショート&ミドルの集客を行うこととした。このことによりショートの利用枠拡大とニーズに応じたタイムリーな受け入れ（使いやすいと評価）が可能となり、復帰率・回転率が向上した。

○地域における老健の利用価値を高めるためには、以下の政策が必要と考えている。

- ・区もしくは医師会主催による懇親会等の開催による、医師やケアマネからの老健の認知度の向上。
- ・空きベッド方式から定床方式への、ショートステイ利用方法の転換。
- ・リハビリマネジメントⅡの算定推進および医師やケアマネへの啓発。
- ・区の第7期介護保険計画への、加算型・強化型老健の役割の位置づけ。

## (5) 事前調査の結果を踏まえた意見交換

### 【1 老健の認知度不足対策、各老健の特徴の整理と発信について】

#### <発言要旨>

- いまだに多くの職種、区民に老健の制度や仕組みが理解されていない。
- 各施設それぞれの経営方針があり、応えられるニーズもそれぞれ特色があるが、それが周囲に適切に伝わっていない。(在宅復帰に強みを持つ施設もあれば、比較的長く入所できる施設もある)
- 家族はもちろん、専門職でも、各老健の特色を完全に把握している人は少なく、老健の選択に大きな手間や時間的ロスがかかっている。
- 各施設の特徴や受け入れ対応可否の項目が整理された冊子の配布もしくはWebの構築を行い、情報発信をしていくべき。また、老健と他施設(療養型病院や特養)との違いについても、情報発信していくべき。
- その発信には、老健の使い方をわかりやすく示すナビゲーション機能も持たせ、煩雑な書類作成等で家族が被る負担を少しでも軽くするべき。

### 【2 顔の見える関係性を醸成するための場づくりについて】

#### <発言要旨>

- 回りハ病院から老健に移行する際に、本人のゴールへ向けたリハビリテーションの分断が起ってしまいがち。
- 機能中心のリハだけでなく、老健→自宅と続く生活の場の変遷を踏まえたリハ職間の連携強化が求められる。
- 病院と老健の相談員同士の交流強化が求められるが、日々の業務で忙しく別途そのような場づくりを行うことは現状出来ていない。
- 区が音頭を取って、老健と病院、老健とケアマネ、老健と在宅医、老健と区民といった場づくりイベントを定期的に企画してはどうか。

### 【持ち帰り課題の案内】

- 持ち帰り課題のテーマは、「自施設の強み、良さ、立ち位置について」とする。各施設の地域包括ケアにおける立ち位置や魅力、特色について、施設内の複数のご意見をまとめ、回答としていただきたい。持ち帰り課題の回答を踏まえ、第2回WGの議題について検討することとしたい。

## 5. 意見交換のまとめ

上記意見交換では、各老健の特色の整理・集約・発信(冊子やWeb)という情報ベースの取り組みと、テーマごとの顔の見える場づくりによる交流の活性化というリアルな取り組みを並行して進めていくのがいいのではないかと、という方向性が見えた。

前者に関しては、既存の仕組みでは何が不十分なのか、新たに集約する場合どういう項目が求められるのかという視点を含めて、今後検討していく。